

# 戦後 80 年、安保法制 10 年 ふたたび戦争させない あいち大行動報告

山本みはぎ

9月21日、鶴城ホールで「戦後 80 年、安保法制 10 年 ふたたび戦争させない あいち大行動」が開催されました。2015年9月、安倍政権による安保法制の制定に続き、岸田政権による安保 3 文書の改訂で軍事のみならず、経済や社会の軍事化が急速に進む中、これに対抗する運動をどう作るかという観点から、あいち総がかり行動の呼びかけで実行委員会を発足させ取り組みを始めました。

集会は、中谷雄二弁護士（総がかり行動共同代表）から、「安保法制 10 年は何をもたらしたのか」という基調講演から始まり、軍事化が急速に進んでいる沖縄・西日本各地の市民団体が、「知り、つながり、止める」をスローガンに結成をした「沖縄西日本ネット」から、沖縄の具志堅高松さん、熊本の海北由紀子さん、京都祝園の呉羽真弓さん、そして地元愛知からは城下英一さんから現状報告を行いました。

中谷弁護士は「自衛隊は発足したが、集団的自衛権行使違憲、海外派兵の禁止、攻撃型兵器の禁止、非核三原則、防衛費 GDP 比 1% 枠等憲法で縛ってきた。この縛りを取り払ったのが安保法制です。安保法制 10 年がもたらしたもののは、全面的に戦争するための国家改造です。戦争は敵を前提にし、敵を前提にした国では、暴力を容認し、憎悪と差別・排外主義が蔓延する社会となります。この国で進んでいる憲法違反の具体的な事実を元に全国各地から新たな安保法制反対の闘いを起こすべき時です。」



具志堅隆松さん（沖西ネット共同代表・沖縄戦骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表）は、「沖縄戦当時はものが言えなかつたが、今は自由に言える。それを保障しているのが憲法で、主権者は国民。」

国が決めたことに従うではなく國の進む方向は私たちが決めることができる。上海で行われたフォーラムで、私は「戦争は望まない。琉球列島を非軍事化したい」というと、中国は、「琉球列島が非軍事化されたら琉球には軍事的な関与はない。ただし、自衛隊がアメリカ軍と一緒にになって攻撃をしてきた場合は別」という。自衛隊は、ミサイルを

持って沖縄から出ていてください。自衛隊員に戦死をしてほしくない。それが日本を守ることになる」と言い続けている。」と発言。

海北由紀子さん（沖西ネット共同代表 平和を求める軍拡を許さない女たちの会熊本）は、熊本市には健軍駐屯地に西部方面総監部があり、県内には高遊原駐屯地、北熊本駐屯地と大きな師団が集まっている。健軍の第5地対艦ミサイル部隊に、愛知で作られている 12 式地対艦誘導弾能力向上型が配備される。ミサイルの避難訓練で子どもたちを洗脳している。戦争は武器と軍隊だけではできない。平和は、命懸けの外交でしか実現可能ではないと本当に思う。連帯して一緒に声をあげていきたい。」と発言。

呉羽真弓さん（沖西ネット共同代表 京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワーク共同代表）は、「祝園分屯地には補給拠点として、陸上自衛隊、海上自衛隊の共同使用。長射程ミサイル保管のための大型弾薬庫 14 棟の新設が計画され、8 月に工事が着工された。1960 年の 2 月 26 日に結んだ増設する場合は町側と協議するなど 23 項目の使用条件をつけた確認書があるのに反故にしている。増設中止の声を上げていきたい。」と発言。

城下英一さん（愛知県平和委員会副理事長）は、「戦闘機などの自衛隊機やヘリコプター、ミサイル、ロケット、ドローンに至るまで、「空を飛ぶ兵器」のほとんどが三菱重工と川崎重工でつくられており、愛知は「兵器製造でも日本一」となっている。三菱重工小牧南工場（豊山町）では、ステルス戦闘機 F35A の最終組み立てを行ってきたが、日英伊共同でつくる次期戦闘機の開発設計も行う。三菱重工小牧北工場では、多種類の長射程ミサイルの開発と製造を行っている。愛知の軍需産業の実態を知らせ、大軍拡をストップさせよう。」と発言。

集会終了後は、たくさんの人が行きかう中、伏見から栄まで元気にコールをしながらアピールをしました。

長射程ミサイルは今年度末から、健軍駐屯地や富士駐屯を皮切りに、全国各地に配備が開始される。各地で軍拡に抗い、

平和を作るために活動をする人たちとともに、愛知でも運動を作っていくましょう。

